

沖縄本土復帰 50 年 第 45 回 5・15 沖縄平和行進に参加して

関東地方横浜支部青年部長 寶納 雅行

本土復帰 50 年沖縄平和行進が 5 月 12 日から 15 日にかけて沖縄で開催され関東地方から 5 名で参加し平和について学ばせて頂きました。

初日はホテルにて三単産結団式と平和学習会が行われ沖縄地方山口委員長より受け入れ歓迎挨拶を頂き、家族の理解があつて今日を迎えられていると思う。全港湾の団結が保たれてコロナウイルスにかからず自宅に帰られる事を願っている。
又、無事帰宅するのも組合としての団結だろと言うふうに思っていますと歓迎の挨拶を頂きました。

中央本部より鈴木副委員長の挨拶で「如何なる理由があろうと軍事力や力を背景にした行動は許されない」と力強い挨拶を頂きました。

学習会では古謝厚雄氏(こじゃこうゆう)を講師に戦争の悲惨さや戦後の沖縄の現状を聞きました。本土で基地反対運動が激しく海兵隊を本土から沖縄に基地移動させ、沖縄は 7 割 8 割りが海兵隊だと言われていました。

印象に残った事は本土復帰しても米兵が残り思った通りの返還ではなかった。日本の憲法が通用しない。アメリカのいいなり。今では目で見なくても戦闘機の音で機種をあてられる様に耳が覚えてしまった事など今でも戦争の犠牲者だと思いました。

視察ではひめゆり資料館、旧海軍司令部壕、嘉数高台公園、辺野古をバスで数日に分けて視察しました。ひめゆりの塔では戦争の犠牲になられた、ひめゆり学徒さんなど将来ある若い子達の遺品などの展示や戦争の悲惨さを思い知らされる放映などの資料が数多くあり、戦争の恐ろしさが詰まった資料館に戦争の怖さを感じて言葉がでませんでした。

14 日午前には 3 グループ編成で米軍普天間飛行場がある宜野湾市役所を出発し嘉手納基地がある八重島公園まで約 9 キロを行進しながら「基地のない平和な沖縄をつくろう」と約千人が声を上げました。

(主催者発表)デモ行進では第 3 グループを沖縄地方新里副団長が務め交通責任者を全港湾稲嶺さんと德里さんが三単産から九州地方馬場団長と四国地方川田副団長が先頭に引っ張ってもらい三単産でシュプレヒコールをあげ関東地方からは酒井さんと吉岡さんにレンジャーをして頂きスムーズな行進団が出来ました。

県民大会では結集する仲間と共に「基地のない沖縄」「基地のない平和な日本」を団結してガンバろう！と団結して閉会しました。

今回の平和行進を通して感じた事は戦争がもたらす悲惨さは、痛みはけして消えない。どんな時も武力による行動は許されない。先の敗戦を教訓に戦争放棄の9条を死守しなければならないと思います。

最後になりますがコロナ禍の中、沖縄平和行進を決断された中央本部の皆様、準備受け入れやバーベキューを用意して下さった沖縄地本の皆様ありがとうございました。